

# 令和7年度(2025年度) 施政方針

令和7年(2025年)3月定例市議会の開会に当たり、令和7年度(2025年度)に臨む、施政の基本方針を申し上げ、市民の皆様、並びに議員各位のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

平成27年(2015年)3月14日に北陸新幹線飯山駅が開業し、今年3月で10年が経過します。3月20日には開業10周年記念イベントを開催いたします。

実感できる開業効果といたしまして、インバウンド需要等により、スキーシーズンに大勢の海外旅行者が飯山駅に降り立つ姿が冬の風物詩ともいえる光景となりました。引き続き、北信州の玄関口として、「訪れたい」まちづくりを進めてまいります。

(「飯山郷創～世界にひらく 里山の未来～」の実現へ)

私が就任して3回目の新年度を迎えます。市長に就任して以来、直面する諸課題の解決に対し、「本気で聞く、本気で語る、本気でやる。」の姿勢で、全力を傾けてまいりました。

当然のことながら、社会経済情勢の変化により、市政を取り巻く状況は変わり続けております。就任当初にお約束した公約や令和5年(2023年)3月に策定した飯山市第6次総合計画だけでは今の市民ニーズに十分応えることはできないとの思いが強まり、12月26日から1月16日まで新年度

予算編成にあたり、市民の皆様から市政についてのご意見を募集させていただきました。約80件の様々な貴重なご意見をいただき、大変ありがとうございました。それらに対する市の考え方については調整ができ次第、公表させていただきます。

今回、直接市民の方々からのご意見をお聞きした、約80件のご意見のうち、約10件は新年度予算案に反映させていただき、他のご意見についても、今後の施策の中での取り組みを考えてまいります。

#### (国、県の状況)

ここで、市政を取り巻く国や県の状況等を申し上げ、ご理解を賜りたいと存じます。

国においては、1月24日に閣議決定されました「令和7年度の経済見通しと経済財政運営の基本的態度」では、我が国経済は、「賃上げと投資が牽引する成長型経済」に移行できるかどうかの分岐点にあるとされ、令和7年度(2025年度)の経済見通しにおいては、民間需要主導の経済成長が実現することが期待され、実質GDP成長率は1.2%程度、名目GDP成長率は2.7%程度、また、消費者物価は2.0%程度の上昇率になると見込まれております。

国の新年度予算案は、「賃上げと投資が牽引する成長型経済へ移行する

ための予算」とされており、防衛力の抜本強化、「子ども未来戦略」に基づくこども・子育て支援の本格実施、GX投資推進、AI・半導体産業基盤強化といった重要政策課題への対応等をポイントに、一般会計総額が115兆5,415億円と、前年度当初比で2兆9,698億円、約2.6%の増となる予算規模となっています。

長野県におきましては、「確かな暮らし」を守り、「ゆたかな社会」を築くため、令和5年度（2023年度）からスタートした「しあわせ信州創造プラン3.0」に基づく取組を一層推進するための新年度予算案として、信州未来共創戦略で掲げられた、若者・女性から選ばれる寛容な社会づくり、信州の強みを生かした移住・関係人口の増加、安心・便利で持続可能な生活圏の整備促進、変革期を乗り越える経営等の革新の4つの方向性の実現への貢献とともに、ゼロカーボンやDXの推進、地震防災対策の強化などに加え、県民に伝わる広報、県民と共に創る県政の実現のための予算が計上され、新年度一般会計予算総額は1兆119億円、前年度と比較し127億円、約1.3%の増となったところです。

#### （飯山市の施策）

このような状況の下、飯山市における令和6年(2024年)の人口減少率は約2.2%、2023年の約2.6%と比較すると約0.4%、ポイント減少率は下

がりましたが、依然として厳しい減少が続いています。人口問題解決を、最大の課題と位置づけ、その原因である若者の流出と出生数の減少の双方に歯止めをかける対策が急務となっております。そのために、次代を担う子どもたちの育ちを支えるためには、妊娠・出産・子育てまで切れ目のない子育て世代支援を、基盤産業である農業に対しては、新規就農者の確保・育成に加え生産力や付加価値の向上を、観光振興では需要が高まっているインバウンドへの促進のためにも、里山をはじめ千曲川や飯山線など地域資源を活用した取組を進めます。また、全ての人が暮らし続けたいと思える、安全で安心なまちづくりについて最優先で取り組んでまいります。

今述べました様々な施策について、限りある財源の中で、今やるべきこと、やらなければならないこと、という点を重視した予算配分とすることと同時に、健全な財政運営を維持してまいります。

市民各位、議員各位のご理解ご協力をお願い申し上げる次第であります。

#### (令和7年度(2025年度)予算案概要と重点施策)

それでは、新年度予算案の特徴と、施策の概要を申し上げます。

予算総額は、一般会計で168億3千万円、城北小学校の建設工事費の減等により、前年度比約6億6千6百万円、約3.8%の減となりました。

歳入は、市税については来年度個人住民税における定額減税の縮小や給

与所得の増等を考慮し、前年度比1億7百万円増の24億2千8百万円を計上、地方交付税は前年度比1億4千4百万円、約2.4%増となる60億5千7百万円を計上し、国県支出金のほか、ふるさと納税を活用した基金等の活用、市債等で歳入確保をいたしました。

歳出においては、各地で激甚化・頻発化する自然災害に備え、千曲川の内水排除施設整備や、避難所の環境整備の推進などの事前防災対策に重点的に予算を計上し、脱炭素の地域づくり、行政手続きのオンライン化による住民サービスの向上につながる自治体DX及び飯山市DX推進計画に基づく取組の推進、小中学校の給食費負担軽減などの子育て支援や、地域おこし協力隊、集落支援員制度を活用した地域の維持や活性化、また、国の交付金を活用し、物価高騰が長期化する中、市民生活を支援し地域経済の活性化を通じた地域振興を図るため「飯山市市民生活応援商品券」を全市民に配布するなど、公約に基づく重点政策と第6次総合計画に掲げる基本目標と整合を図りながら、目標達成への着実な推進に重点をおいた予算を編成したところです。

以下、新年度の重点施策に関わる事業について、前期基本計画に掲げる5つの基本目標に沿ってご説明申し上げ、市の姿をご理解いただければと存じます。

一つ目は、「美しい自然環境を守り、クリエイトするまち」づくりであります。

飯山らしい魅力ある景観まちづくりを通じ、自然と共生する豊かな暮らしの実現のため、策定された飯山市景観計画に基づき、より一層の景観形成の推進に向けた取り組みを進めていきます。

自然環境保護に向けた温室効果ガスの排出削減及び2050年カーボンニュートラルの実現のため、家庭における再生可能エネルギーへの移行と脱炭素化を促進するための支援制度を約5百50万円から2千5百万円へ約5倍に拡充して取り組んでまいります。

地域課題の解消等に向けた活動に取り組んでいただいております地域おこし協力隊については、今年度16名となります。郷土食の伝統継承、スポーツ振興、農業への従事など多様な業務に取り組んでいただいております。新年度においては新たに19名の任用を計画し、地域外の人材の知識・経験・感覚を積極的に受け入れ、地域資源の魅力化や付加価値の創出を図ってまいります。

関係人口創出につきましては、飯山市の魅力を理解し、飯山市を宣伝いただける方の登録会員制度、信越自然郷いいやま応援隊「雪ん子クラブ(仮称)」を創設し、飯山市内外の人々との関わりやつながりを深め、関係人口増加と知名度向上を目指す取組を新たに進めてまいります。二地域居住に

も積極的に取り組んでまいります。

二つ目は、「未来を拓く子どもたちが育つ共育のまち」づくりであります。

新たに開校する城北小学校において、3年生から6年生で教科担任制を取り入れた「学年担任制」による子どもたちに寄り添った教育活動を実践します。また、地域住民の皆様の参画を得て、子どもたちが放課後に多様な体験や活動ができるような環境を整えてまいります。例えば、英語あそび、地域探検、理科実験などが想定される放課後子ども教室です。その際、集落支援員制度も活用します。

子育て世代支援として、令和5年度（2023年度）から段階的に取り組んでおります小・中学校給食費の負担軽減につきましては、新年度から補助率を現行の5割から7割へ拡充するとともに、幼児教育の給食費と幼児保育の給食費については新年度から完全無償化を実施して、保護者負担の更なる軽減を図ります。

また、飯山市は県内市町村と比較して乳幼児の虫歯罹患率が高いことから、年長園児から小中学校の児童生徒を対象にフッ化ナトリウム溶液を用いたうがいを実施することにより、乳幼児のむし歯罹患率を下げる取組を進めてまいります。

三つ目は、「世界に誇れる技術を持ち、産業が活発なまち」づくりであります。

令和7年度(2025年度)では、市内農林畜産業の現状と課題に向き合い、市や生産者やJA等が参画する「飯山市農林畜産業ビジョン策定会議(仮称)」を開催し、農業部会、林業部会、畜産部会の各部会を設け、市内農林畜産業の体制構築や取組実現に向けた具体的な施策構想を策定し、取組を推進します。その際、農業委員会にもよく意見を伺ってまいります。

観光施策としては、北陸新幹線飯山駅を起点に外部資本による開発の動きが高まりつつある斑尾高原をはじめ、飯山市としてインバウンドの推進を図るとともに、観光エリアごとの課題に取り組んでまいります。

また、旧城南中学校跡地や、城北中学校区の4つの小学校が統合されることにより閉校となる4小学校の跡地、MIZBEステーション、市が所有する工業団地などの公有財産の利活用についても、市の課題解決に活用し、地域と調整を図りながら進めてまいります。

四つ目は、「一人ひとりが生きがいを持って挑戦できるまち」づくりであります。

2028年国民スポーツ大会の開催に向け、県の新年度予算案に関連し、今まで県の単独支援のなかった冬季スポーツでは初めて、県知事から前向き

に検討すると明言いただきました。市営飯山シャンツェ整備に係る設計業務を進め、スキー、カヌーの選手育成及び競技役員の育成に取り組めます。整備費用の財源の足らざる部分については、様々な企業に、企業版ふるさと納税による寄附を募ってまいります。

飯山市公民館、女性センター未来、市立図書館、ふるさと館、美術館の5館から成る学びのエリアについて、長寿命化に合わせて、これらの施設を有効に活用していくための方向性を検討してまいります。

人手不足が続く介護分野への外国人も含む介護未経験者の参入を促進するため、研修の実施と介護資格取得への支援にも取り組んでまいります。

五つ目は、「安全で安心して暮らしを愉しめるまち」づくりであります。

生活基盤である公共交通の利便性向上を図るため、乗り合いタクシーの新たな移送方法の導入に向けた実証実験を12月から来年3月まで行います。

また、交通事故防止対策の一環として、新たに運転免許証を返納された方を含めた高齢者等の交通弱者の方々への移動のための支援にも取り組んでまいります。

冬期間も不安なく安心して住み続けられる地域づくりを進めるため、雪

かき支援事業による除雪困難世帯への支援の継続に引き続き力を入れて取り組むほか、除雪体制をしっかりと維持してまいります。

防災減災に向けましては、信濃川水系緊急治水対策プロジェクトで国が行う千曲川の堤防整備に合わせた内水排除施設の整備や国の交付金を活用して災害備蓄計画を前倒しし、組立式トイレや発電機、投光器などの災害に備えた備蓄物資及び備蓄資材の整備等、災害対策の強化に取り組みます。

以上、施策の概要について申し上げました。

最後になりますが、先に申し上げたとおり、新年度は、第6次総合計画前期基本計画の3年目となります。基本構想に掲げる将来のまちの姿「飯山郷創（きょうそう）～世界にひらく 里山の未来～」の実現を目指し、全力で取り組んでまいります。

一言でスローガンのように申せば、「経済を動かす、暮らしを守る」が新年度予算の特徴です。

市民の皆様の一層のご協力をお願いするとともに、議員各位のご支援ご協力を心よりお願い申し上げ、所信表明と致します。

令和 7 年（2025 年） 2 月

飯 山 市 長 江 沢 岸 生